

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立中学校給食検討委員会(第3回)				
事務局 (担当課)		学校保健課 電話042-769-8283(直通)				
開催日時		平成26年11月12日(水) 午後1時30分~3時30分				
開催場所		相模原市役所第2別館 5階 教育委員会室				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	3人(学校保健課長、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) モデル事業の実施内容について (2) モデル事業アンケート内容について (3) 今後の中学校給食について (4) その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

- 1 開会
- 2 あいさつ
吉岡会長あいさつ
- 3 議題

事務局より資料の説明を行い、質疑・意見交換を行った。

(1) モデル事業の実施内容について

特に意見、質疑等なし。

(2) モデル事業アンケート内容について

【生徒用アンケート関係】

給食についての満足度を聞くよりも、給食の内容についての満足度にした方が良い。

温度や好み、見た目などへの満足又は不満足の原因については、該当項目のみ回答となっているが分りづらい。

選択項目に「特に気にならない」等を追加し、全項目に回答してもらうようにします。

全学年にアンケートをするならば、中学1年生でも理解できる漢字、表現を使用するよう工夫が必要と考える。例えば「異物混入」「面倒」等は日常、使用しない。

ひらがなでの表記や説明を欄外に記すなど、学校と相談し分りやすい表現とします。

週2～3回や週1回程度給食を食べている場合、汁物を飲む機会がないことも考えられるので、汁物を飲んだか確認したほうが良いのではないかと。

汁物を飲んだか、飲まなかったか、質問項目を追加したらどうか。

汁物の提供が週2～3回の場合、1月の給食が終わってからのアンケートでは飲んだかいは回答できるが、回数は忘れてしまう。

アンケート結果を解析することを考えたら、15回の給食全部に汁物を付けたほうが良い。

15回が無理ならば予定していた8回を連続で実施し、汁物が終わったらすぐにアンケートを実施したらどうか。

前回の検討委員会で、実施方法として週2～3回で計8回と決まったのではないのか。アンケートの内容を検討すれば良い。

15回の汁物提供は、献立作成や、給食費の関係などにより難しい。8回を連続で実施することは調整できると思う。

8回連続の実施となれば、終了後すぐにアンケートを実施し、汁物を飲んだ回数も確認できる。

どの汁物が一番おいしかったかも聞いてみたらどうか。

汁物の提供は8回連続の実施とし、終了後にすぐに回答してもらうようにします。

新たに「汁物を飲んだか、飲まなかったか」「汁物が一番おいしかったものはどれだったか」

などの設問を追加する。

昼食時間についての設問は、何を調べたいのか目的がはっきりしていない。実際に時間のことを聞きたいのか、気持ち的なものなのかわからない。

分りやすい内容に修正する。

今後、給食に汁物があった方が良いかということについて、「毎日がいいのか」「週2～3回がいいのか」などの回数についても確認したほうが良いのではないか。

毎日、週2～3、週1回等の項目を追加する。

ご飯の量について、「ふたの色分けを実施しましたが」とあるが、誘導する感じがあるので、削除したほうが良いのではないか。

「ご飯の量の違いは、分りやすかったですか。」に修正する。

担任の先生が生徒へアンケートの実施について説明する際に、「回答の抜けがないか、も一度しっかり確認するように」は別の表現の方が良いのでは。

学校と相談し「記入漏れがないか、もう一度よく見直してください。」等の表記に、修正する。

【保護者用アンケート関係】

モデル給食について、「生徒の感想・意見があったか」を聞いているが、自由に記載してもらう方が良いのではないか。

感想等の有無の選択肢を設け、あった場合は具体的に記入してもらうように修正する。

生徒が2人以上いる家庭では、1人分だけ答えればいいのか。

兄弟がいても、それぞれ感じ方があるから、それぞれの回答をもらったほうが良いのではないか。

中学生の兄弟が2人以上の場合、それぞれ回答してもらう。保護者への説明文も同様に修正します。

前回の委員会で話があったように、封筒に入っているほうが生徒も忘れずに保護者に渡すとのことなので、アンケートは紙だけ渡すのではなく、封筒に入れたほうが良いのではないか。

封筒に入れ、封筒には「保護者用アンケート在中、 月 日までに学校まで提出してください。」と記載します。

【教職員用アンケート関係】

モデル実施による給食時間への影響を聞いているが、分りづらいので給食の時間中に特定したほうが良いのではないか。

「給食の時間中に何らかの影響がありましたか。」に修正し、あった場合は、具体的に記入してもらうようにします。

性別の確認は不要では。

集計解析するうえで、性別はあった方が良い。

性別は学校と調整します。

(3) 今後の中学校給食について

学校給食センターの給食は生徒たちも喜んでいる。並んで給食を配膳し、班単位で食べることは教育効果がある。給食時間の問題はあがあるが、センター方式で全員喫食となるのが理想と考える。

給食を頼むのか弁当を持参するのを選択することも食育につながると思うので、選択できるのは良いと思う。

喫食率が50%以下となっているし、クラスによってもバラツキがある。給食だよりの発行・配付や献立を掲示しているがなかなか喫食数は伸びない。

生徒自身が自分の健康などについて考えることを給食を通じて行うことができると良いと思う。

小学校との親子方式や食缶によるデリバリー方式など、各学校の実情に合わせた方式で実施できれば良いと思う。食物アレルギー対応については、選択制のデリバリー方式でなくては駄目ということはない。学校給食センターでも食物アレルギーにより食べられない献立の日は、対象の生徒への給食を止めている。

家庭の事情等もあり選択制は残したほうが良い。喫食率も70%くらいになれば良いと考える、残りの3割は弁当でも良い。

食育については学校、家庭の理解が最も重要なことから、しっかり伝えてほしい。

出来るだけ多くの生徒が食べたほうが良いと思う。

自分が子供の頃は食育について言われることがなかった。学校での食育も大事であるが、一番は保護者への食育が必要と考える。

どの給食実施方式でも、「メリット」「デメリット」はある。学校に合わせた方式により実施できれば良いと思う。生徒の栄養を考えた給食であるべきである。

生徒に必要な栄養等の情報を特に若い保護者に対して発信できたら良いと思う。

デリバリー給食で喫食率を100%や70%等を目指す必要性には同調できない。

弁当の良さもある。ある中学校では弁当の日として自分で弁当を作ってくるというところを行っている学校もある。

保護者、生徒に理解してもらおう何らかの取り組みが必要である。

デリバリー給食以前は、昼食を食べない、持ってこない、買ってくるといった生徒などがいたが、デリバリー給食の開始によりそういった環境が改善され、栄養の摂れる給食が始まった。

食育については、小学校ではカリキュラムがだいぶ整備されたが、中学校では未整備なので、そういった事も答申に入れていければ良いと思う。

(4) その他

1月のモデル事業実施期間中において、相武台中学校での配膳等の状況確認や実際に汁物付きの給食を委員の皆様にご試食していただくことも良いと考えているが、どうでしょうか。

反対の意見はなく実施に向け調整する。

次回（２月）の検討委員会では、モデル事業の実施結果及び答申書の素案を提示させていただき、内容についての検討を実施する。

4 閉会

以 上

相模原市立中学校給食検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉岡 有紀子	相模女子大学栄養科学部	会 長	出席
2	伊与 亨	北里大学医療衛生学部		出席
3	小嶋 理史	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
4	小関 和代	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
5	堺 千里	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
6	水野谷 珠世	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
7	高原 麻美	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
8	黒瀧 直行	新町中学校	副会長	出席
9	北村 正弘	青野原中学校		出席
10	小泉 勉	旭中学校		欠席
11	山本 真	相武台中学校		出席
12	朴木 昇	相陽中学校		出席
13	高橋 純子	城山学校給食センター		出席
14	高橋 陽子	公募		出席